

平成 28 年度第 1 回文系チャレンジ講座を実施しました

平成 28 年度第 1 回文系チャレンジ講座が、平成 28 年 4 月 27 日、「漢字の歴史及び漢字文化圏について」をテーマとして、大分大学経済学部の包聯群(ボウ レンチュン)先生によって行われました。

遠隔配信された大分^{おぎのだい}雄城台・大分鶴崎・安心院^{あじむ}・日田・大分商業・高田・国東・別府青山 翔青・三重総合・臼杵・中津南の 11 校(277 名)の高校生が受講しました。



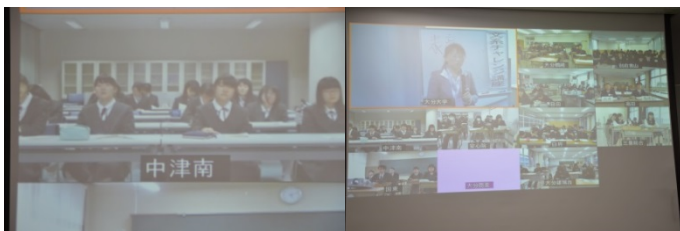
包先生は、講座の前に受講生に「本日は、漢字の歴史及び漢字文化圏について紹介します。漢字は、世界で歴史がもっとも長く、広範囲で使用され使用者も多い文字のひとつです。漢字の誕生と応用は中華文化の発展を推し進めただけでなく、世界文化の発展にも深い影響を与えました。今から、約 6000 年前のものである半坡遺跡で 50 種あまりの符号が発見され、「漢字の萌芽である可能性が高い」と言われています。今日の講義では、漢字文化圏の現状とその歴史背景などについても取り上げる予定です。」と、メッセージを送りました。

包 聯群先生は中国出身です。最初、「雲」が 3 つ、「龍」が 3 つの漢字を示され、これが「たいと」と読まれることを説明しました。画数も非常に多く、中国では、121 画もある漢字もあると聞き、受講生から歓声があがっていました。次に中国での孔子を祀る儀式をビデオで紹介し、文化の継承に力を入れている中国内のように紹介しました。日本には伝わってこない現地のようすに目を見張っていました。

次に、「漢字はどこから伝わって来たのか」という問題について、「六書」という中国初の漢字研究の文献を紹介する中で、「約 6000 年前の遺跡から 50 種類の符号が見つかり、これが漢字の起源であること、そして、甲骨文字から象形文字へと変化していったこと」が説明されました。漢字は表意文字であり、ひらがな・アルファベットは表音文字であることも説明されました。包先生は、好きな漢字、ひらがな、アルファベットをノートの書くよう指示され、なぜそれが好きなのかを質問し、表意文字、表音文字の違いや漢字に親近感を持つことが出来るように語りかけていました。

次に漢字文化圏についての説明と続けました。かつて中国の周辺の国々はすべて「漢字文化圏」を形成していました。中国、朝鮮半島、日本、ベトナム、シンガポール、マカオなどに「漢字文化圏」は広がっています。ハングル文字やベトナムのチュノム(字喃)¹も漢字をもとにつくられており、日本では現在約 15 万もの漢字が存在すると説明されました。

講義後のアンケート調査では、「総合的に判断して良かった」(85%)「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計。以下同じ)、「教員は真剣に取り組んでいた」(98%)、「受講生は授業に意欲的に取り組んだ」(92%)という高い評価でした。遠隔配信については、「音声は良く聞こえた」(84%)、「映像はよく見えた」(78%)という結果がでました。受講生の具体的な声として「漢字の成り立ちが良くわかった」、「中国の文化や文字など漢字に関連することがわかって良かった」、「初めての遠隔配信授業でしたが、他校生とのようすや質問に対する答え方にも違いがあるように感じた」、「漢字が単なる伝達手段だけでなく、人々の生活の一部であることがわかった」、「大学の授業は難しかったが、内容が深く興味が湧いた」など多くの感想が寄せられました。次回以降のチャレンジ講座への期待感が高まった講座でした。



¹ ベトナム語表記のために漢字と併用された文字。ベトナム語音に近い音をもつ漢字と、ベトナム語の意味に近い意味をもつ漢字の複合によってつくられた。13 世紀から 14 世紀ごろには盛んに使用されたいが、その後は衰えて現在ではほとんど使われない。
出典 <https://kotobank.jp/word/%E3%83%81%E3%83%A5%E3%83%8E%E3%83%A0-852059> (最終閲覧 2016. 4. 30)